

## 南三陸支部

菅原 健二  
支部長

組合員	485人
管轄エリア	気仙沼市、南三陸町、石巻市等
担当:JP 総合研究所 福島 美佳	

——3月11日の地震発生時、すぐに宮城県沖地震だと思い、冷静な行動をされていますが、それができたのはなぜでしょう。

宮城県の方で私ぐらいの年代だと宮城県沖地震を既に経験しているはずですし、宮城県沖地震の発生確率は30年で90%と高かったことで、いつ来てもおかしくないという報道は宮城県内ではありました。また、今回の地震の前にも宮城県北部地震や直下地震も頻発していたこともあって地震に対する意識はありました。

火災や地震時の行動の知識があったことと、普段からできるだけ最悪の状況を考えて行動するように心がけていることもあって冷静に行動できたのだと思います。

——地震後、大津波警報が流れるまで様子を見ながら配達を続け、警報が流れてから支店に戻りましたが、警報が流れたときの対応は決まっていたものですか。

配達地域は多分海から2km以上離れているので、そこまで津波が来るという印象がなく、高台に避難という方もいませんでした。ただ、今回は10mの津波と警報を聞いて、どれだけの規模の津波が来るのか想像できなくて、それで避難しておこうという感じで私は支店に戻りました。



菅原支部長

防災マニュアルはありますが頻繁には周知しませんし、地震の時の行動については基本的になかったので、判断できない社員は多かったと思います。沿岸部の社員は意外と地震＝津波のイメージがありましたが、内陸部の社員は「津波」が頭にあっても地震＝津波の直結など、知識がないと判断は難しかったと思います。ある程度の情報や知識があるかないかは大きな差です。

震災後、防災マニュアルが改めて配備になりましたが、周知に加えて勉強する時間や避難訓練なども含めて定期的にやらないと意識は生まれてこないと思います。

また、減災し人的被害を抑えるため、今までの常識で間違っていることなどを正しく発信したり、機会があれば話すということが被災した側にもできることだと思います。支部内でも基本的なすり合わせが必要だと思っています。

——3月18日から業務を開始され、当初は避難所によって配達に苦労される場所など様々だったと思いますが、大変だった点を教えてください。

避難所・避難者リストは、市役所をお願いしても個人情報保護法で一民間企業に教えられないと断られましたから、自分たちで居住確認の用紙を渡す、避難所のボランティアの人に頼んで書いてもらうなどして作っていきました。

個人情報保護法の壁は思ったよりも大きいです。仕事上もありましたし、お互いの情報を交換できないなど会社間でもありました。普通の災害時とこういう非常時の扱いを全て一緒にされるのもどうかという気



現在の石巻郵便局

持ちは強いです。

小さい局は分かりませんが、これまで事業会社も局会社もそれぞれ応援が来て、別々に動いて復旧してきた感じです。お互いに誰がどの避難所にいるのかを調べに行くなど無駄なことをしているなと思いました。今でも分社化の認識がなく郵便局は郵便局という方が多いですから、「この前も答えたのに何でまた聞かれるの？」などというのもまだまだ多くて、そういうのも大変でした。

また、郵便は欲しいけれど今いる場所は教えられない、何度お願いしても転居届を出さない、という方もいらっしゃいます。個人の事情なので何とも言えませんが、そういうところも難しいですね。今課題なのは、震災から1年経つので順次転送期間が切れていくことです。会社では引き続き必要な方に向けた周知をする方針です。

——石巻支店や石巻市の復興状況を教えてください。

当初は民間宅配業者もほぼ被災して、ゆうパックの取扱いも禁止だったため、ある程度小さい物を送る手段はレターパックと定形外しかありませんでした。そのため、ゆうパックと民間の宅配が動くまではレタ

ーパックと定形外が大量にあり、さらに手作業なので大変でした。最初は使えるバイク・軽四自動車と年賀リユックを担いで自転車でも配達しました。

石巻支店の場合、ゆうパックの夜間配達が始まり、区分機が入って車両も大体確保できた9月にはほぼ震災前と同じ状況になりました。

石巻市の復興状況は、被災していないところも含めると3割、被災した地域だけを考えれば1割です。報道で見ると瓦礫はなくなりましたし、ほぼ道路もきれいになり、建物も建ち、電気も通り、ある程度商業活動も始まっています。そのため、陸路で石巻に来るとどこが被災しているのか分からなくなっています。被災した地域は瓦礫が片付いたので1割程度は復興したのかと思いますが、これからがコミュニティの再生や新たな産業を興すところなので、まだまだです。

これから来る方々にはまだ片付いていない所も見てもらいたいです。

——支部内の状況把握は、どのように情報収集を行ったのでしょうか。

最終的に支部内の状況把握には1ヶ月程度かかりました。石巻の場合は携帯電話の基地局が被害を受けて圏外でしたし、他の所に行くにも、ほぼ車で行けないか山越えなどの別ルートという感じで、私も局に4日間いて情報からは遮断されていましたから、そこで情報を得るのは大変でした。

結局、徒歩で移動している方の情報を合わせたり、避難後はお互いに動ける範囲で一人ひとり情報の付け合わせをしていきました。当局も私達もその時は一緒に確認し





瓦礫は片付いているが、更地のままの石巻市沿岸部(写真上)  
津波に巻き込まれた車が積み上げられていた(同下)

たいです。不安もあって、なかなか立ち直れないというのも現実として受け止めてもらいたいし、「頑張れ、頑張れ」だけ言われるのはちょっと嫌ですね。

支部としては、サポートというより「どう行動に移させるか」です。「できない」と言う社員や組合員は結構います。でも、「できない」だけ言っても

仕方がないので、なるべくできることを聞いています。

周りが「そんなことやったって」と言うと本人もやれなくなってしまうから、「やってみたい」と言うことは尊重します。仕事だと歩きもありますから、行けるところまで行って、ダメなら戻ってこいと。大概は物を届けると喜ばれますから、1軒でも届けると本人も行って良かったと思うんです。

——近畿地本が南三陸支部のサポート活動責任地本となっていますが、震災に関する情報交換などありましたか。

最初は仮設住宅に行ったり、瓦礫の片付けをしてもらったりしました。阪神・淡路大震災を経験された方も多いので、どういう行動をとったか、どういうことができたか、そういう情報交換は今後やっていきたいと思っています。

これからは自立ある復旧・復興、再生をどうしていくのかを考えていかなければなりませんから、これから再生していく時に自分達に何ができるか、少しずつ「自分達で再生していくんだ」という気持ちに持っていかないといけないと思いますし、そういう所でこれからも応援してもらったり、交

ました。それしか方法はありませんでした。

——震災後、なかなか立ち直れない方もいらっしゃると思いますが、支部としてどのようにサポートされていますか。

まず、報道では被災地の前向きな部分や使命感あふれる行動ばかりを取りあげますが、現実には様々です。震災で家族を亡くしたり、全部なくした方が仕事をするように言われた時、どうしても「この状況で仕事をするの？」という認識を持ちますから、前向きな人だけではないという事を言っておかないといけないと思います。そうでないと、「できない人が悪い、後ろ向きの人が悪い」となってしまいます。良いところも悪い所もあって社会や地域は成り立っていますから、そういう認識は持ってもらい

流したいと思います。

それとは別に組合員に普段と違う環境で日常を忘れてもらう行動も企画していきたいと思っています。

——労働組合としてこういう支援もできるのではないかと感じられたことはありますか。

今回はレターパックで全国の支部から物資が届きました。水や食料の需要が多くありましたが、最初は何もない状況なので全てありがたかったです。支部では不足物資の把握と配送などを行いました。

基本的には組合員のために組織力を活かすのが一つの方法だと思いますが、組合員の暮らす地域も含めて、もう少し組織立てて人的支援ができればというのは感じました。

状況にもよりますが、組織力がありますから限定的ではなく、被災した地域全体をどうするか、純粋に地域を支援する行動がとれたらと思います。

また、今回も早く動いてもらいましたが、組織が大きいとどうしても決定プロセスに時間がかかりますので、スピード感を持って行動するため、その時にすぐにとれる行動の方針のようなものを作っておいた方がいいと思います。あとは指揮命令系統を地本単位でも県単位でもある程度作っておくというのではないかと思います。

——最後に、メッセージをお願いします。

全国の皆さんからの支援・激励、本当にありがとうございます。

今は、復旧した部分だけ見てもらうとこのまま忘れられるんじゃないかという意識があります。現実には、震災から1年経っても何もない状況で、今から住居も産業もどうするかという所で、復旧・復興には多く

の時間と労力が必要です。

自立ある復興をしていくためにも、あまり日の当たらない部分や支援の隙間も含めて継続した息の長い支援をお願いします。

震災を忘れないためにも節目ごとに振り返ってもらったり、被災地に来た方には実際に地域全体を見てもらいたいですし、教訓を得てもらいたいです。

被災地を忘れないでください。

(2012年2月28日取材)

日付と時間	菅原支部長・石巻支店の状況
3月11日 14時46分	地震発生、配達中で、近くの事務所駐車場に避難。
	大津波警報、自分の配達場所は大丈夫と思いつつ支店に帰る。
15時20分	帰店、内務社員や管理者は外に避難している。支店から2kmの霊園に行く案が出るが、途中で川を渡るのをやめた方が良いと進言するも聞き入れられず、第一陣が移動開始。
16時過ぎ	第1陣は橋を渡る寸前で津波を発見、近くのマンション→小学校に避難。
16時30分	班員が全員帰店したので近くの指定避難場所、中里小学校へ移動開始。
17時15分	中里小学校到着。1,000人以上が避難してきており、居場所がないため支店に戻る。下水から水があふれ道路から30cm、最終的には道路から160cm～180cm位になり、支店1階は配達区分台引出下2段が水没、約70人が2階に避難。
3月14日	自衛隊のヘリに救助される。自宅までは偶然会った非常勤社員、先輩社員の車に乗せてもらうなどして帰る。
3月18日	勤務開始、自転車で出勤(ここから2週間、片道1時間30分～2時間45分)。1週間位は出勤できる社員だけでレターパック、書留、速達を配達。
3月22日	通常郵便再開。
3月28日	ほぼ全員が出勤しだし、13時頃に配達が終わるようになる。
4月4日	通常郵便を本格的に開始、勤務も指定表通りに。
4月7日	石巻支店の水復旧。
4月18日	ゆうパック再開。
4月24日	石巻支店の電気復旧。
6月14日	ゆうパック夜間配達再開。
8月下旬	区分機が入る。